

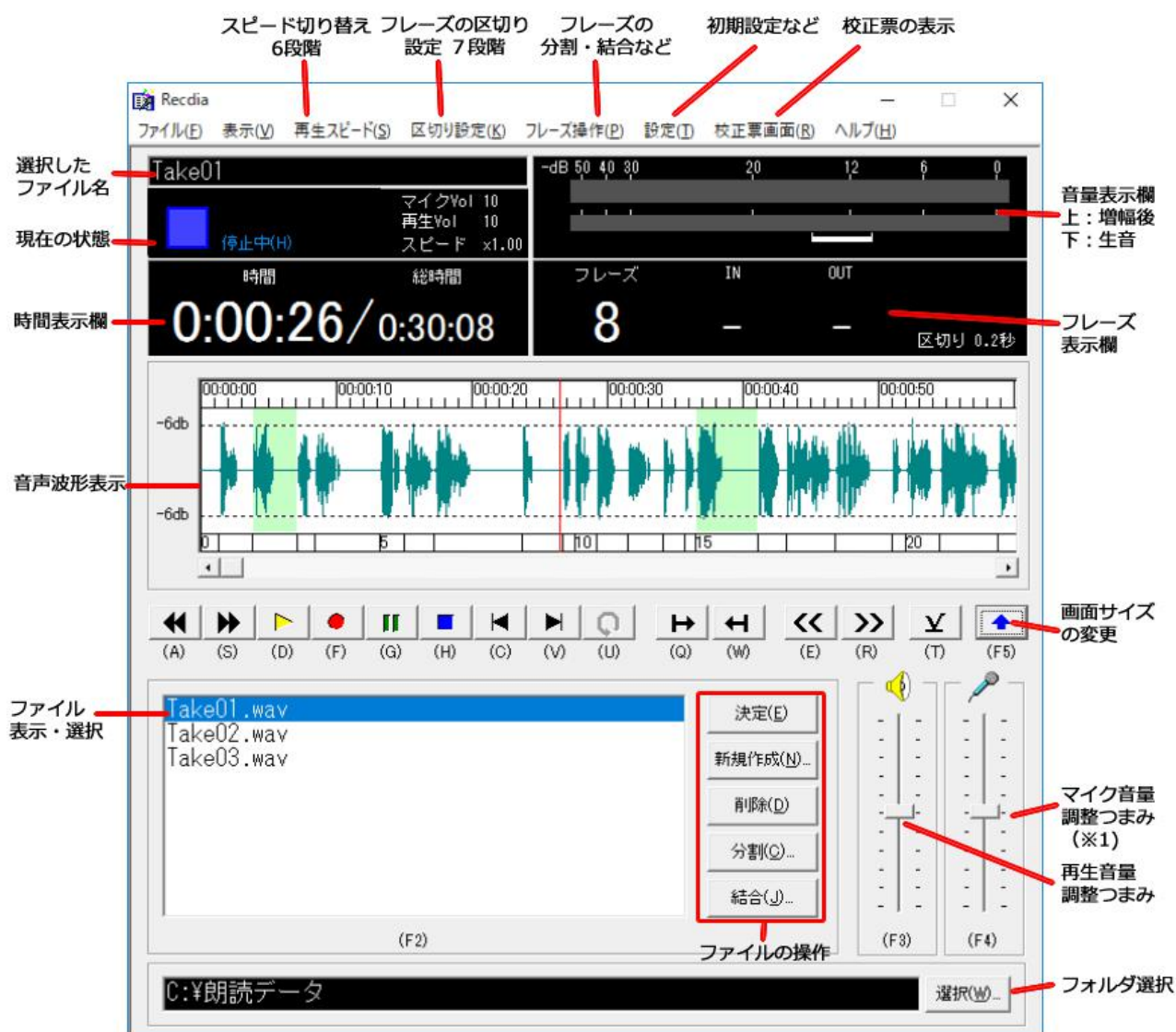
Recdia

スタートアップマニュアル

株式会社サン・データセンター

※このマニュアルは Recdia を初めてお使いになる方向けの簡易版マニュアルです。

【Recdia の表示画面】



※1 USB オーディオインターフェースの接続時は、接続機器側で調節するため使えない場合があります。

【操作ボタンの説明】



ボタン	ショートカット	用途・備考
 (A)	A	巻き戻し 1回:10倍速 2回:120倍速 3回:600倍速
 (S)	S	早送り 1回:10倍速 2回:120倍速 3回:600倍速
 (D)	D	再生 スペースキーでも同じ機能
 (F)	F	1回 REC ポーズ 2回 REC スタート
 (G)	G	一時停止
 (H)	H	停止 スペースキーでも同じ機能
 (C)	C	先頭に移動
 (V)	V	末尾に移動
 (U)	U	録音・修正録音・切り取り いずれかの操作の後、元に戻る
 (Q)	Q	INフレーズをつける ・ INフレーズをはずす
 (W)	W	OUTフレーズをつける ・ OUTフレーズをはずす
 (E)	E	フレーズ単位で戻る Shift+E で前のマークへ跳ぶ
 (R)	R	フレーズ単位で進む Shift+Rで次のマークへ跳ぶ
 (T)	T	マーク マークをつける・はずす(Mでも同じ)

Recdia での録音

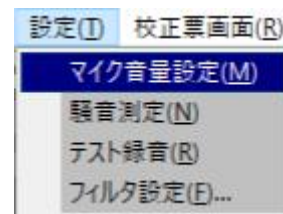
【1. 設定】

(1) マイクや USB オーディオインターフェースなどの接続を確認します。

(2) 準備ができたならデスクトップ上の Recdia のアイコンをダブルクリックして Recdia を開きます。

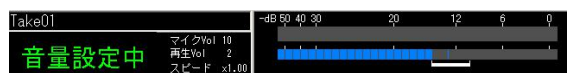


(3) 上のメニューバーの「設定」をクリックすると右のメニューが出るので「マイク音量設定」をクリック。



(4) 「はい」をクリックすると、マイク音量設定が始まります。

普通に読む調子で声を出し、音量表示欄にある白い適切音量を示す範囲に近づくように、マイク位置やマイク音量つまみで調整します。



(白い印まで届かなくても無理に大きな声を出す必要はありません。)

※USB オーディオインターフェースを使用している場合、オーディオインターフェースの OUTPUT レベルで音量調整します。

(5) マイク音量調整後、停止ボタンをクリックしてマイク音量設定を終了します。



(6) 次に、もう一度「設定」→「騒音測定」→「はい」の順で騒音を測定。騒音のレベルが表示されるので「OK」をクリック。
※騒音測定中はマイクに向かって発生しないでください。

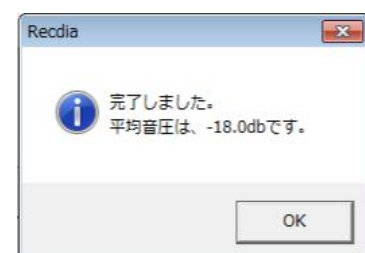


(7) 次にテスト録音をします。「設定」→「テスト録音」→「はい」でテスト録音がはじまります。普通に読む調子で声を出し、言葉の区切れでフレーズが切れているか確認してください。16 フレーズ分テストが終わると完了します。



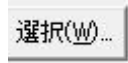
(8) 「OK」をクリックして準備完了。

尚、「設定」は、Recdia を閉じても保持されます。環境や読み手が変わったりしなければ再度やる必要はありません。
※騒音測定のみ、Recdia を起動する度に実行します。

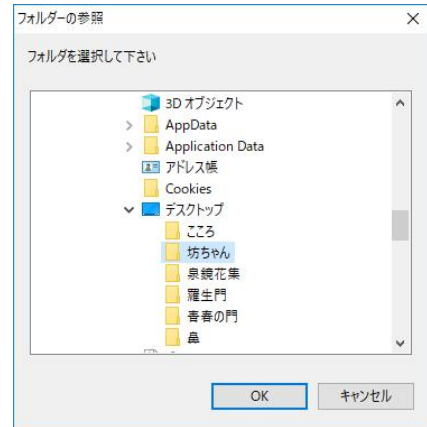


【2.録音】

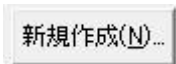
(1)作業用フォルダを選択します。画面上の右下の「選択」をクリックします。



(2)フォルダを選択して、「OK」をクリックします。



(3)ファイル操作部分の「新規作成」をクリックします。ファイル名を入れて「OK」をクリックします。



ファイル名が表示され時間欄に0:00:00と出ます。

★読み始め

- ・Fキーを1回押すと録音ポーズ状態。もう一度押すと録音が始まります。
- ・止めるときは、スペースキーを押します。(Hキーでも停止します。)
- ・Gキーだと録音状態のままポーズになります。

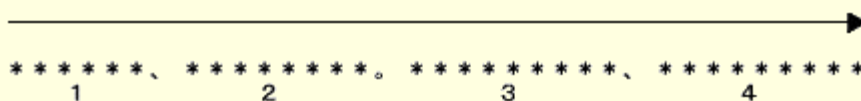
★続けて録音する

- ・止めたところから再びFキーを2回押せば、そこから録音が再開します。
- ・Gキーで一時停止した場合は、もう一度Gキーを押せば録音が再開します。

★間違った部分の前からやり直す

- A) Eキーで1フレーズ戻すと、前のフレーズを再生し、切れ目で止まります。
そこからFキーを2回押すと録音が始まります。
- B) Eキーで戻り、再生する。間違ったところで止めてQキーでIN フレーズをつけます。
- ・ Fキーを2回押すと、少し前から再生し、録音部分の3秒前から信号音が入り、間違えた部分を含むフレーズから録音状態になります。
(Fキーではなく、Dキー又はスペースキーを押せば、試し聞きが出来ます。)

Eキーは、1回押すごとに1フレーズ戻り、再生してそのフレーズの終わりで止まります。



例えば、3の途中で止めてEキーを1回押すと、2のフレーズを再生し、終わりの「。」とところで止まります。4の途中で止めてEキーを2回押すと、やはり2のフレーズを再生し、終わりの「。」とところで止まります。Rキーは、1回押すごとに1フレーズ進み、再生してそのフレーズの終わりで止まります。

例えば2のフレーズの途中で止めてRキーを1回押すと、3のフレーズを再生し「、」のところで止まります。

【3.聞き返し】

★録音が終わりに、頭から聞き返したい場合は、Cキーを押せば、頭に戻ります。

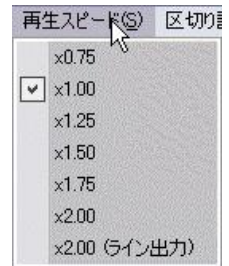
- ・途中から聞き返すため戻る(巻き戻す)時はAキーで戻ります。
- ・早送り(Sキー)と巻き戻し(Aキー)は1回押すと10倍速、2回で120倍、3回で600倍速になります。(4回目で10倍速に戻ります。)
- ・Hキー又はスペースキーで止まります。

※以前に録音した音声ファイルを聞くときには、ファイル表示面に表示されているファイル名を選択し「決定」ボタンをクリックします。

★再生スピード

再生スピードは、Recdia の画面上のメニューバー左から3番目「再生スピード」で調整できます。

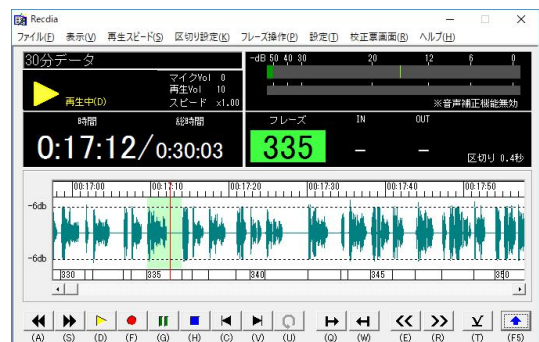
- ・0.75倍(実際より遅い)から2倍まであり、数字をクリックして決定します。
- ・再生速度を上げても声の高さが変わらないようになっています。
- ・2倍の(ライン出力)はテープを早送りしたような音になります。
テープなどに倍速ダビング録音するときは、こちらを使います。
- ・再生スピードは、「現在の状態」の欄に表示されます。



★マーク

聞き返し中、間違ったところ、後で調べたい所などにマークを付けることが出来ます。

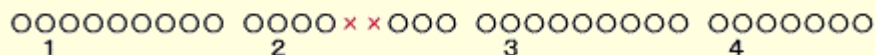
- ・気になる箇所ですべて、Tキーを押すか、マークボタンをクリックします。
- ・フレーズ表示欄のフレーズ番号に緑の枠が付きます。波形表示のフレーズにも着色します。
(※再生中、録音中でもマーク可能です。)
- ・このマークは、後で Shift + E又は、Shift + R キーで呼び出すことが出来ます。



- ・外すときは、Tキーを押すか、マークボタンを再度クリックします。

【4.修正】

★修正は IN・OUTフレーズを使うと便利です。



(1)例えば、フレーズ2に間違いがあり、区切りの具合で2と3を読み直したい場合、まず、OUTフレーズに4を入れます。(Wキー)

(2)次にEキーで戻って INフレーズに2を入れます。(Qキー)



(3)Fキーを2回押すとフレーズ2の少し前から再生し、3秒前から信号音が入り、フレーズ2から録音状態になります。

・ Fキーではなく、Dキー又はスペースキーで指定箇所の試し聞きができます。

(4)正しく読み終わったら、スペースキー又はHキーで停止します。

停止した位置が、フレーズ4の前になります。

この修正方法は、修正部分の長さは修正前と関係なく入れ替えられますので、長すぎ、短すぎの心配はありません。

停止するタイミングが早すぎると、フレーズ4との間が無くなりますので、ご注意ください。

●OUTマークは、2回クリックすると位置固定となります。

この場合は表示が赤くなります。

位置固定になった場合は、INマークとOUTマークの間の時間が固定

され、修正で読んだものが短かった場合は、修正前の後ろの部分が残ります。長かった場合は、途中で切れます。全体の長さをどうしても変更したくない場合はこちらを使うと良いでしょう。



★挿入

録音が終わってから、読み落としや図などを挿入したい場合です。

(1)例えばフレーズ3と4の間に入れたい場合、フレーズ4に INフレーズと OUTフレーズを付けます。

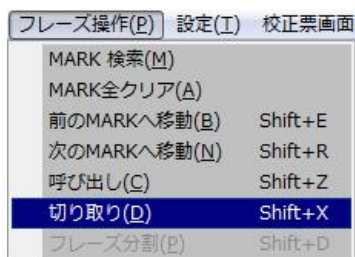
(2)Fキーを2回押して録音。停止するまでが、3と4の間に挿入されます。



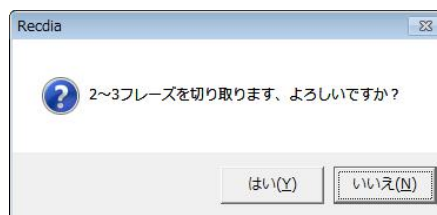
★切り取り

録音が終わってから切り取りたい部分があった場合です。

- (1)例えば、フレーズ2と3を切り取りたい場合はOUTフレーズに4を、INフレーズに2を入れます。
- (2)メニューバーの「フレーズ操作」をクリック。「切り取り」をクリックします。



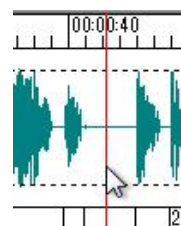
- (3)「はい」をクリックするとフレーズ2と3が切り取られ、フレーズ1の次に4がつながります。



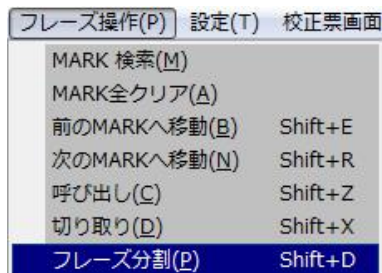
★フレーズの分割

不要な間が空いてしまったり、声の無い部分に突発的なノイズが入ったときに、カットしたい部分をひとフレーズとして切り出します。切り出すにはフレーズ分割を行います。

- (1)波形表示から切り出したい部分の先頭にカーソルを置きます。



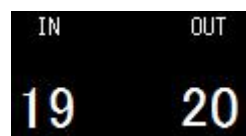
- (2)メニューバーの「フレーズ操作」をクリック。「フレーズ分割」をクリックします。



- (3)「はい」をクリックします。



- (4)カーソル位置から始まるフレーズの末尾までがひとつのフレーズとして切り出され、IN・OUTフレーズが自動挿入されるので、切り取りなどのフレーズ操作がすぐに出来ます。

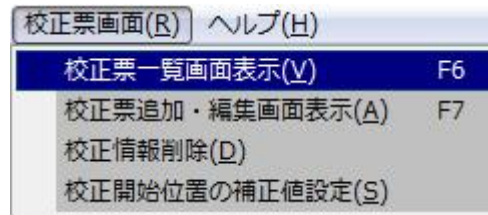


※切り出したい部分のフレーズ末尾の位置が違う場合は、IN・OUTフレーズを外し、末尾にもフレーズ区切りを行います。

【5.校正票の記入】

★校正をする時は、ファイルを決してから、メニューバーの「校正票画面」をクリックします。

(1)「校正票一覧画面表示」をクリック



(2)右の画面が出るので朗読者、校正者、書名、など必要事項を入力します。

尚、校正者の名前などがある表紙は印刷の時の設定によって外す事が出来ます。



(3)パソコンの画面に Recdia と校正票が表示されて狭いときは、Recdia の「表示」から「縮小」を選択(又はマイク音量調整の上にある青いマークをクリック)し、さらに「音声波形表示」のチェックを外すと、Recdia の下半分が表示されなくなります。



★校正票を追加する

(1)再生して、間違った箇所があったときはそこで時間表示をクリックします。

(2)クリックした時間が入力された状態で右の画面が出ます。

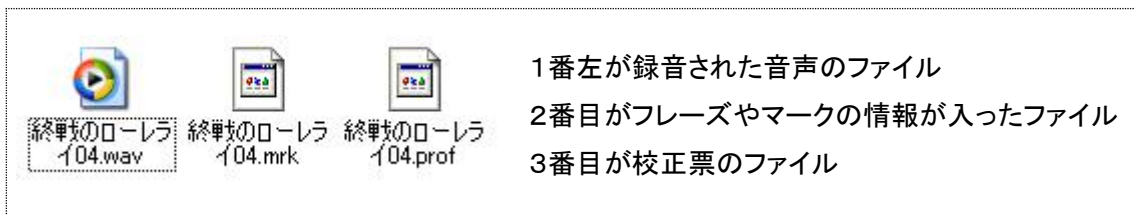
(3)その他の必要事項を入力し「OK」をクリックすると一覧表に戻ります。

(4)内容を修正したいときは、修正したい行を選択して一覧表の「校正行編集」をクリックすれば、右の画面が出て修正できます。



・校正しながら気になったり迷ったりしたときにマークを付けておけば、後で簡単に呼び出して、再度聞くことが出来ますし、後から追加しても、時系列で並べ替えが行われます。

★校正をするとこのようなファイルができます。



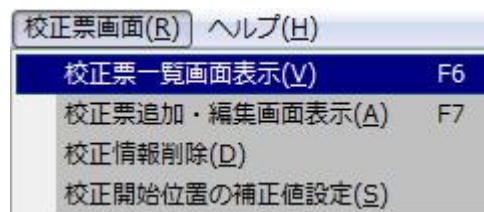
- ・音訳者には1番目(wav)のファイルは既にありますから、2番目(mrk)と3番目(prof)のファイルをメールなどで送ると読み手は校正票を開くことができます。
- ・製作施設を通して読み手に渡す場合も、施設に音声ファイルがあれば、mrk ファイルと prof ファイルを送るだけで済みます。ただし、音声ファイルが同じフォルダに入っていないと、2つのファイルは開くことが出来ません。

【6.校正票での修正】

(1) 音訳者は、校正票のファイルが送られてきたら、音声ファイルと同じフォルダにコピーします。その際、自分で聞き返したときに出来た mrk ファイルが残っていたら、削除しておいた方が良いでしょう。

(2) Recdia で録音可能な状態にして、「校正票一覧画面表示」を出します。

「校正票一覧画面表示」をクリック。



(3) 一覧から修正する行の時間をクリックして選択し、次に「校正行編集」ボタンをクリック(または行の上でダブルクリック)します。

(4) 「校正票編集画面」が出ますので、下の右端、「時間送信」ボタンをクリックすると、Recdia に校正箇所が頭出しされます。

(5) 修正箇所を確認してから、IN・OUTフレーズを使って修正します。

(6) 終わったら、「校正票編集画面」の「朗読者修正」欄にチェックを入れます。

「OK」をクリックすると一覧に戻ります。

(7) 修正が全て終わったら、3つのファイルを校正者に渡します。

校正者は同じようにして修正箇所だけ聞くことができます。

